

教育動向

11・1 高2で飛び入学、来春大学院へ

高校は二年間、大学は三年間で済ませ、二十歳で大学院生に。高校二年で千葉大に飛び入学し、同大理学部在籍する十九歳の男子学生が、今度は同大学院の飛び入学試験に合格した。文科省は「大学、大学院ともに飛び入学試験に合格したのは全国でも初めてではないか」としており、来年四月には二十歳の大学院生が誕生しそうだ。大学への飛び入学は名城大(名古屋市)でも実施。大学院への飛び入学は二〇〇〇年度で約四十六大学で導入されている。(新潟日報)

11・4 五日制前で県内高、授業時間を

来年度からの学校週五日制完全実施に向け、県内の高校で平日の授業時間を増やしたり、長期休暇を短縮する動きが出ている。大学受験をにらみ授業時数を確保するためだが、ゆとりを生むはずの五日制の下、高校生活がかえって窮屈になる面もありそうだ。県立では新潟中央高

や巻高などが五十分授業を五十五分に延長。始業時間の繰り上げ・終業時間の繰り下げを行い、土曜授業の減少分を補う。新学習指導要領では、週当たりの標準授業時数が現行の三十二単位から三十単位に減るが、「新教育課程でも学習量は現行と大差ない。大学入試センター試験科目も増える方向にあり、授業時数を減らすわけにはいかない」(新潟中央高)との事情がある。新潟南高は、現在六十五分授業×五コマを来年度から五十五分×六コマに変更、一日の授業時間を五分増やす。長期休暇も六十八日から六十二日に短縮し、授業時数を確保する。新潟高は、長期休暇の短縮で、長岡高、高田高では土曜の授業を平日に移動させる形で対応。私立校は、例えば第一高は月三回土曜に授業を、東京学館新潟高は、毎土曜に補習をする等。

11・21 「新潟・『非行』と向き合う親

たちの会」(通称「こもれびの会」)発足
子どもの非行に直面した親たちが悩みを語り合おうと県内で発足した「新潟・『非行』と向き合う親たちの会」の初の

公開学習会が、新潟市で開かれた。東京で五年前に発足した同趣旨の会から代表の能重真作さんが司会して、東京の会員の母親二人と県内の中学校教師、保護観察官の四人がパネリストとして語った。会では月毎に例会を開き、学習していく計画。悩んでいる親たち、専門家などに参加や支援を呼びかけている。(新潟日報)

11・29 養護学校の分校02年四月に開校

県は二八日、〇二年四月から、十日町の十日町小学校内に小出養護学校の分校を開校する方針を決めた。県内には養護学校が十九校あるが、十日町圏は養護学校が未設置。障害児の保護者は車で片道五十分近くをかけて小出養護学校に送り迎えをするなどしている。(新潟日報)

12・5 日本「数学」トップ 32カ国中

15歳生徒到達度、経済協力開発機構調べ
OECD(経済協力開発機構)が、昨年初めて実施した「生徒の学習到達度調査(略称DISA)」で、日本の高校生は参加三十二カ国中、数学的应用力が一位、科学的応用力が二位、読解力が八位と、トップクラスの成績だったことが四

日分かった。文科省が結果を公表した。

(新潟日報)

12・20 高校内容の補習3割の大学で

学生に対し、高校の授業内容を「補習授業」として実施している大学が全国の約3割、一六七大学にのぼることが、文科省が十九日に発表した「大学カリキュラム等の改革状況調査結果」でわかった。正規の授業でも、「わかる学生」「わからない学生」をわけると、全体の半数以上の大学が高校の学習内容について何らかの配慮をしている。大学生の「学力低下」が叫ばれるなか、大学側の対策も広がっている。

(朝日新聞)

12・20 新潟っ子身長全国1位

新潟の子どもは背高ノッポ。本県の十四、十七歳男子と十三歳女子の平均身長が本年度全国一位であることが、県統計課のまとめた「学校保健統計調査」で分かった。調査対象の五〜十七歳(四月一日現在)の身長は全年齢で男女とも全国平均より高く、新潟っ子の身長ぶりを示している。発育調査は県内の幼稚園児、小中高校生から計一万四千四百七十七人

を抽出、今年四〜六月に実施した健康診断の結果を基に行った。(新潟日報)

02・1・10 全学年33人以下学級に全国初

来年度から段階導入 山形県 山形県は今年四月から、公立小学校全学年に、二〜三三人の少人数学級を段階的に導入する。文科省によると、一学年を約三十人の学級にした例はあるが、小学校全学年への導入は全国初になるという。高橋和雄知事が九日、少人数学級実現に必要な教師の人員費の増加分八〜十一億円を来年度予算に盛り込む方針を明らかにした。県教委は市町村教委の同意を取りつけており、二〜三年で完全実施できる見通しだという。(朝日新聞)

1・11 本場の歴史知りたい 7割が

「侵略含め」筑波大教授、本県中3調査 全国の中学三年生約千人に対し、歴史教科書について尋ねたところ「侵略行為を含めて歴史の真実をありのまま載せてほしい」との回答が六八%を占めたことが十日、遠藤晋筑波大教授らの調査で分かった。「自分たちの国を誇れるような内容を多く載せてほしい」と答えた生徒は

五%にとどまり、一部の学者らの「現行教科書は自虐的」とする批判には、中学生の多くは共感していない。本県他茨城、埼玉、奈良、香川の各県の公立中計五校と東京の国立二校で、計千九人が回答した。昨年九月から十一月実施。(新潟日報)

1・20 高校の講演一転辞退大江健三郎氏

ノーベル賞作家の大江健三郎氏が、県立三条高校(笠原中庸校長)で企画した講演依頼をいったん承諾したが、その後政治的発言に配慮するよう求められたため、辞退していたことが十九日、分かった。大江さんの家族によると、言論人として自由な講演ができないと判断したという。(朝日新聞)

1・22 小中49万人学力調査、文科省

文科省が、六年ぶりに実施を求めている大規模な学力調査が二四日と、来月二一日にある。全国の小学五年生から中学三年生まで計四九万人が対象。合わせて勉強の意欲などについて意識調査をすすめる。結果は秋にまとめる。「学力低下」があるのかどうかや、「勉強離れ」の実態をつかむ大きなデータになる。(朝日新聞)